

『業界のトップランナーの講義を地域にしながら聴講可能に。
医療専従管理者としてマインドが向上。』

実際に使っているお客様に直撃インタビューしました



国家公務員共済組合連合会 シミュレーション・ラボセンター様

■導入先

■お客様名称

国家公務員共済組合連合会 シミュレーション・ラボセンター

■お客様の主な業務内容

医療従事者の医療の質向上を目指した、安全管理研修及び各種シミュレーターによる研修。指導者の研修及び情報交換。一般の方への消防との連携を持った心臓マッサージ等の研修。

■導入商品

■機器構成

P3000 × 3台

■ご導入拠点

- ・虎の門病院 様
- ・共済病院用 2台
- KKR札幌医療センター 様
- 佐世保共済病院 様

■料金体系

ダブルフラット6-25

導入の背景

全国の連合会病院へ出張シミュレーション研修を行う機会が増加しており、より効率的な学習・教材の共有、シミュレーション情報の共有ニーズが高まって来ていました。

そこで、共済病院にヒアリングしたところ、遠隔教育を「ぜひ実現して欲しい」という声が多く上がっていました。

導入前の課題

これまでは、集合型の研修が多く、地域の代表者が参加していました。参加できない人には、研修風景をビデオ撮影し、DVDを配布してましたが、見ない人もいました。

関東周辺と札幌や九州とでは、それぞれの地域代表者からの伝達となってしまうため、情報の地域格差が生じることが課題でした。

また、現状の医療・教育研究については、シミュレーター(体の1部分をつかった人形など)を使っの、4方向からカメラで監視しながらの実践教育をPCの専用ソフトで遠隔地に配信していました。

しかし、映像の閲覧は全拠点から視聴できますが、双方向では無いため遠隔地の専門者は講義中に問題に気がついても指摘できませんでした。

更に、教育終了後にインストラクター同士が無料のWEB会議システムで、質疑応答や指導をしていましたが、1拠点同士でのやりとりしかできず、複数拠点同時でのコミュニケーションが求められていました。



シミュレーション教育の様子



パーソナルタスクレーニング

気管支鏡トレーニング

P3000をこのように利用しています

東京で実施している医療安全管理者研修を、遠隔地の共済病院へ向けリアルタイム配信しました。

多くの共済病院職員が、医療安全に関わる様々な知識、事故分析手法を学ぶことが可能となりました。

また、一方向的配信ではなく、双方向で適時遠隔地から東京会場の講師へも質問(意見)ができ、研修自体の教育的質が向上されました。

また、シミュレーション教育実施前のブリーフィングツール(事前打合せ)としても利用しています。

コンパクトで病院(設置場所)を選ばないので、東京で一括管理をしておき勉強会の実施要望がある病院に、都度送付する運用をしています。



インストラクターブリーフィングの様子

導入後の効果

医療安全管理者研修では、参加者は診療報酬上の医療安全管理者の資格を取得できます。接続拠点の聴講者は取得できませんが、何よりも、全国の職員が医療安全管理責任者の仕事を「知ること」ができました。業界トップランナーの講義を地域にしながら聴講できることでモチベーションの向上につながり、更に専従管理者としてのマインド向上が可能になりました。

この取り組みで、各共済病院で活動している医療安全管理責任者の活動環境を、より一層活動しやすくできていると考えています。全国の共済病院職員が医療安全に関わる「知」を同時一斉に習得できるため、共済病院全体の「医療安全ベクトル」の同一化が期待できます。

また、各病院内で会議室の予約がとりづらいこともあるので、会場を選ばず受講できるというスタイルは効果的でした。さらに、遠隔教育を活用することによって、現地まで赴く必要もなくなり、上記を実現する為に必要な交通・宿泊費、時間負担等の軽減にも期待できます。

医療安全管理者研修の様子



お客様の声・今後の展望



(左)
国家公務員共済組合連合会 シミュレーション・ラボセンター
ラボマネージャー 臨床工学士 大森 正樹 様

(右)
国家公務員共済組合連合会 シミュレーション・ラボセンター
ラボマネージャー 看護師 荒井 直美 様

P3000を一言でいうと「機動力」です。ポータブル性に秀でているため、求められた場所に対応できるのが魅力です。

今後は、月1回の定例教育や、その他イレギュラーの講義も予定しています。また、幹部会議も集合会議から、P3000を活用した遠隔会議への移行を考えています。

さらに、P3000は、教育や会議だけに利用するだけではなく、BCP対策としても導入しました。普段から使いこなせるツールでなければ、緊急時に利用することなどできない、と考えています。

共済病院におけるネット聴講の取り組み、継続性は、参加者のアンケート結果からも高評価をいただいていますし、災害医療研修、他の共済病院で実施されている研修会について需要が高いことがわかりました。共済病院は各地域での中核医療機関でもあり、地域医療連携の一環としてもネット聴講のようなイベントに「門を開ける」体制が望ましいと考えています。

全国グループのメリットを最大限活用。地元にいながら最新の研修を聴講できるのは、当該地域に全国グループの共済病院が在るから、との地域での評価・信頼に繋がるようにしたい、と考えています。